

どんな商店街？

うらぶくろ商店街は広島市中心市街地の袋町にあり、旧西国街道で中四国最大の商店街「本通」の南に並行する2本の裏通りです。隠れた名店やおしゃれな店舗が点在し、個性的で、斬新な街区のイメージがありますが、平成18年までは組織等はありませんでした。しかし、このような状況に危機感を覚え、平成19年4月に袋町「裏通り」活性化委員会（準備会）、翌年7月に袋町「裏通り」活性化委員会を発足させ、平成22年12月に「うらぶくろ商店街振興組合」を設立しました。

広島市の中心市街地において、目抜き通りの「本通商店街」が至近であるにもかかわらず、過去に実施した通行量調査で、1日の通行量が本通の1割以下という調査結果が出るなど、裏通りへの人の流れを作ることができていませんでした。また、うらぶくろ商店街エリアには、個性的な店舗が点在するものの、店主等同志の交流や、商業地域としてのソフト事業もないなど、人を誘引する仕組みもありませんでした。

組合設立後は、イベント開催や地域と連携した活動等に取り組んでいましたが、郊外の大型ショッピングモール等との競合の影響を受け、空きテナントは増加し、老朽ビルの多くは活用されないままコインパーキングになりつつありました。

街並みが寂れないように歯止めをかけ、商店街に人の流れをつくるためには、店主等が一体となって、うらぶくろ商店街ならではの強力な魅力を、新たに作り、印象付け、ひいては空き店舗への入居を促すような対策を講じることが不可欠となりました。



うらぶくろ商店街振興組合

■ここでしか手に入らない「蚤の市」の開催！

人の流れを作るために、店主がそれぞれアイデアを出し、隣接する袋町公園で開催する「蚤の市」を企画しました。開催にあたり、ボランティアスタッフによる企画室を立ち上げ、コンセプトの提案や運営体制の構築、各回のテーマに沿った出店者の掘り起こしを、企画室で担うこととしました。

蚤の市の名称は「ザ・トランクマーケット」とし、お店の人が、トランクに商品を詰め込んできて、会場でトランクを開けてお店を出すという印象としています。さらに、このマーケットにしかない価値を創出することを意識し、出店者には「この日だけの商品」「自慢の一品」を持ち寄ることを呼びかけ、出店者自体も、商店街の店舗を半分、東京をはじめ、県外からの店舗を半分となるよう選定することで、屋外のイベントには出店

しない飲食店や東京限定のお店、当日だけのコラボ商品を扱ったお店など、普段では味わうことができないような特別感を出すために、工夫を凝らしています。

会場についても、来場者に印象が残るように、マーケット独自のテントをデザインしたほか、公園内のレイアウトにも配慮し、来場者がゆったりと買い物を楽しめるような工夫を取り入れています。また、出店者に対しても、企画室が、地域企業とのマッチングや不動産の紹介もあわせて行うことで、商店街への誘致のきっかけとなり、特に、県外からの出店者にとっては、マーケットを通じて、地域特性を把握することが可能となり、魅力的な店舗の出店につながっています。このような、さまざまな工夫を取り入れ、今年度で13回目の開催となる大人気イベントとなりました。



■エリアの活性化事業として

13回目を数える「ザ・トランクマーケット」は、大人気のイベントに成長したものの、本来の目的は単発イベントによる集客ではなく、「中心市街地の公共空間等の活用によるにぎわいの創出」に向けた実験的な位置付けとしています。本イベントのように、公共空間等を高度に「商業」・「文化」利用することで、新たなにぎわい創出の可能性が拓けることを期待しています。

